

舞台のモデルは静岡

マイクロマガジン社

ことのは文庫



第三きぼうビル

誰も主演じゃない日々

著：植原 翠

装画：ふすい 定価：781円(本体710円+税10%)

『おまわりさんと招き猫』

第12回

静岡書店大賞 映像化したい 文庫部門 第1位受賞の著者待望の最新作!

何かあれば
探偵事務所へ
お越しください。

3F

探偵事務所

ビルのオーナー(だるっとしただらしない外見の中年男性)が構える、最上階の探偵事務所。探偵は道楽で名乗っているだけで、収入は家賃。ビルの面々からは「ハムスター程度の推理力」と言われる。

2-B

美容室

口の悪い美容師・姉御が、2階の半分で営む美容室。話し方が女性っぽいのであだ名が「姉御」だが、外見も自認も男性。そこそこの腕前と美貌の持ち主だが「あら〜廃棄直前の肉まんみたいでカワイイ」など独特な褒め方をするせいでリピーターがつかない。

ビル内
テナントを
ポスター形式で
一挙紹介!

2-A

ベンチャー企業

23歳くらいの若手起業家・ニエーが2階のもう半部分を事務所にして営む「企画・開発・マーケティング総合カンパニー」。何かはしているらしいが、具体的に何をしているのかはよくわからない。ニエーはノリと勘だけで成功してきたバリビ。口癖は「分かるうー」だが、基本わかっていない。

1F

居酒屋

オヤジ然とした風貌の大将が営む、1階の居酒屋「きまぐれ亭」。気まぐれなので店のメニューもしょっちゅう入れ替わる。ダウンナー系大学生がオーナーのスーツにコーヒーをかけてしまった弁償のためアルバイトとして働いている。